

ひとりで悩んでいませんか？

DVの根絶を目指して

配偶者・交際相手からの暴力は 犯罪ともなる行為をも含む 重大な人権侵害です

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは、配偶者や交際相手など親密な関係にある(あった)人から振られる暴力です。DV被害者の多くは女性であり、女性の人権を著しく侵害するもので、男女共同参画社会の実現にあつての大きな妨げとなっています。配偶者等からの暴力は、加害者と被害者の関係が配偶者等であるという性質上、外部からの発見が困難である家庭内において行われることが多く、また、被害を受けても外部に相談することに抵抗を感じる人が多いことから、問題の潜在化と被害の深刻化の傾向にあります。DVを正しく理解し、DVの根絶と男女共同参画社会の実現を目指しましょう。

Q DVとはどんな行為なの？

A DVの形態は、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力があり単独で起こることもありませんが、多くはこれらの暴力がいくつか重なって起こっています。

身体的暴力 なぐる・ける・物を投げつける・髪をひっぱる・首をしめる・刃物を突きつける・タバコの火を押しつける。

精神的暴力

大声でどなる・人前でのしる、ばかにする・長時間無視する・大切にしているものを隠す、捨てる・外出を制限する・行動を監視する。

性的暴力 性行為の強要・嫌がるのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる・避妊に協力しない・中絶の強要。

経済的暴力 生活費を渡さない・「誰が食わせているのか」と言つ、「外で働くな」「仕事をやめろ」と言つ。

Q DVはなぜ起るの？

A DV被害者の多くは女性です。女性に対する暴力は、男性が女性を暴力で支配下に置くこととする意識から起こります。

背景には、社会的地位や経済力の格差、固定的な性別役割分担意識や女性軽視など、今日に至るまでの社会的・構造的な問題があります。

平成18年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査(図1)」では、女性の5人に1人が身体に対する暴力を受けたことがあると回

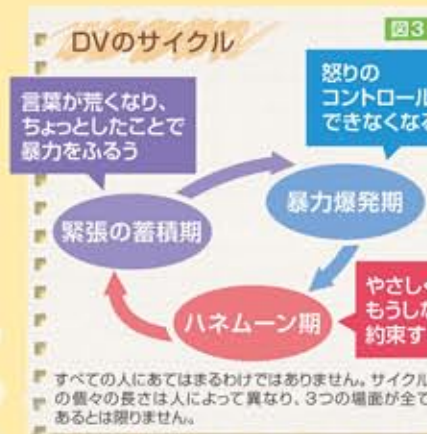
答しており、この問題が身近なものであることがわかります。

Q デートDVとはどういうこと？

A 若年層(高校生や大学生など)において、DV同様に交際相手から振られるさまざまな暴力を「デートDV」と呼んでいます。

さいたま市が実施した「若年層における交際相手からの暴力(デートDV)に関する意識・実態調査(図2)」では、交際経験のある生徒・学生のうち全体として約3人に1人は何

らかの暴力行為を受けたことがあると回答しています。若年層における暴力の特徴としては、携帯電話に出ない・返事が遅いと怒る・発信履歴、メールチェックするなど携帯電話による精神的被害が多く見られます。また「デートDV」という言葉を聞いたことがある若年層が全体の4人に1人、内容まで知っているのは5人に1人とどまっておき、「交際相手からの暴力が問題である」という意識が根付いていない状況も明らかとなりました。



Q どうして逃げ出さないの？

A 逃げないのではなく、「逃げ出せない」のです。

DVには、一定のサイクル(図3)があり、暴力とやさしさが繰り返し現れるといわれています。暴力がなくなることはめずらしく、次第にエスカレートしていきます。

暴力が繰り返される中で、暴力に対する恐怖感や逃げ出す自信もなくなり無気力状態に陥ることもあります。また、愛されているから暴力を振るわれる、いつか変わってくれるなどの思いから、被害者である自分を自覚できない場合もあります。

さらには、経済的理由や子どもとの問題から逃げ出せない状況もあり、第三者から見ると、逃げ出すべきだと思えるような状況でも逃げ出せないことが多いのです。

他人事ではありません。女性の5人に1人が身体的な暴力の被害を受けた経験があります。配偶者からの身体的暴力があったという女性は19.8%、男性は13.4%。精神的暴力は女性10.9%、男性3.5%、性的暴力は女性16.7%、男性2.2%でした。いずれも被害経験は女性に多くみられます。

配偶者からの被害経験 男性=649 女性=960 単位:%



大人だけではありません。若年層も3人に1人が何らかの暴力行為を受けていました。

デートDVの被害経験 対象:市内高等学校、専門学校、大学 単位:%



(注) 交際相手がいる(いた)と回答した方に、交際相手からの暴力の被害を伺いました。(全体1,368人/男性617人/女性727人) 性別など調査対象者の基本属性に「無回答」があるため、全体の数値と男女別・年代別の数値は一致しません。

人によってこんなにも認識が違います。「なぐる」「刃物などを突きつけておどす」「足でける」などの行為は多くの人が暴力と考えます。しかし、「交友関係や電話を細かく監視する」「長時間無視し続ける」などの行為を暴力と思わない人は1割を超えています。

暴力として認識される行為 総数=1,931 単位:%

